

第2章 釜石市の子育てを取り巻く現状と課題

1. 人口等の統計データの推移

(1) 人口と世帯の動向

①人口

総人口は平成26年に35,840人でしたが、増減を繰り返し平成30年には初めて3万5千人を下回り34,945人となっています。

年齢3区分別人口を見ると、年少人口は各年で減少し生産年齢人口は平成28年に前年を大きく上回りますが、その後再び減少に転じています。また、老年人口は各年で増加しています。

年齢3区分別人口割合を見ると、年少人口割合は平成26年に年少人口は10.5%でしたが、平成28年から10%を下回り、平成30年には9.4%となっています。老年人口は平成26年に35.9%でしたが、平成30年には37.8%に増加しています。

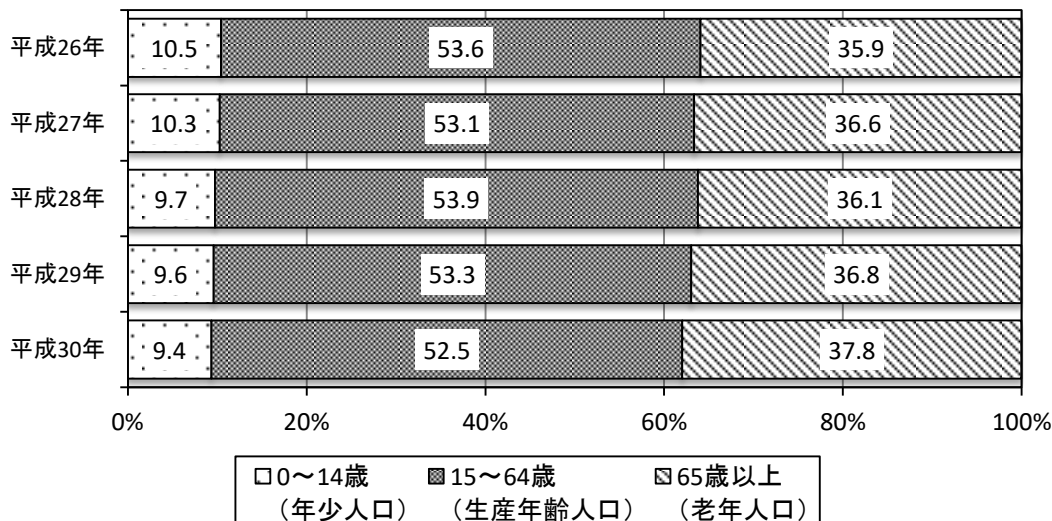
表一年齢3区分別人口

(単位：世帯・人)

年度	世帯数	総人口	年齢区分			
			0～14歳 (年少人口)	15～64歳 (生産年齢人口)	65歳以上 (老年人口)	年齢不詳
平成26年	17,114	35,840	3,747 10.5%	19,213 53.6%	12,873 35.9%	7
平成27年	16,983	35,262	3,629 10.3%	18,713 53.1%	12,913 36.6%	7
平成28年	16,916	36,363	3,539 9.7%	19,588 53.9%	13,121 36.1%	115
平成29年	16,818	35,721	3,424 9.6%	19,027 53.3%	13,155 36.8%	115
平成30年	16,600	34,945	3,269 9.4%	18,345 52.5%	13,216 37.8%	115

資料：「岩手県人口移動報告年報」（各年10月1日）

年齢3区分別人口割合



②世帯

一般世帯（施設等の世帯除く）は、平成2年に17,927世帯となっていますが、平成27年には16,048世帯と1,879世帯減少しています。

親族世帯のうち、核家族世帯の割合が増加しており平成2年には73.8%でしたが、平成27年には83.2%と9.4ポイント増加しています。さらに、核家族世帯の中でも一人親と子どもからなる世帯では、核家族世帯に占める割合が増加傾向にあります。

6歳未満親族のいる世帯と18歳未満親族のいる世帯ともに各年で減少しており、平成27年では6歳未満親族のいる世帯は1,021世帯、18歳未満親族のいる世帯は2,671世帯となっています。

表一形態別家族構成

(単位：世帯・%)

	平成 2年	平成 7年	平成 12年	平成 17年	平成 22年	平成 27年
一般世帯	17,927	17,839	17,616	16,975	16,070	16,048
親族世帯	14,347	13,917	13,240	12,237	11,284	9,942
	80.0	78.0	75.2	72.1	70.2	62.0
核家族世帯	10,581	10,423	10,116	9,449	8,879	8,272
	73.8	74.9	76.4	77.2	78.7	83.2
夫婦のみ世帯	3,973	4,349	4,436	4,200	3,886	3,525
	37.5	41.7	43.9	44.4	43.8	42.6
夫婦と子どもからなる世帯	5,188	4,638	4,148	3,656	3,339	3,092
	49.0	44.5	41.0	38.7	37.6	37.4
男親と子どもからなる世帯	180	185	215	236	245	277
	1.7	1.8	2.1	2.5	2.8	3.3
女親と子どもからなる世帯	1,240	1,251	1,317	1,357	1,409	1,378
	11.7	12.0	13.0	14.4	15.9	16.7
その他の親族世帯	3,766	3,494	3,124	2,788	2,405	1,670
	26.2	25.1	23.6	22.8	21.3	16.8
非親族世帯	26	25	32	28	24	64
	0.1	0.1	0.2	0.2	0.1	0.4
単独世帯	3,554	3,897	4,344	4,710	4,762	6,033
	19.8	21.8	24.7	27.7	29.6	37.6
6歳未満親族のいる世帯	2,214	1,873	1,734	1,467	1,168	1,021
	12.4	10.5	9.8	8.6	7.3	6.4
18歳未満親族のいる世帯	6,308	5,085	4,299	3,668	3,121	2,671
	35.2	28.5	24.4	21.6	19.4	16.6

資料：国勢調査（各年10月1日現在）

③婚姻と離婚

釜石市の婚姻件数は、平成22年から減少しており平成25年に増加に転じましたが、その後再び減少傾向となり平成29年には128件となっています。また、婚姻率は全国や岩手県よりも各年で低く推移しています。

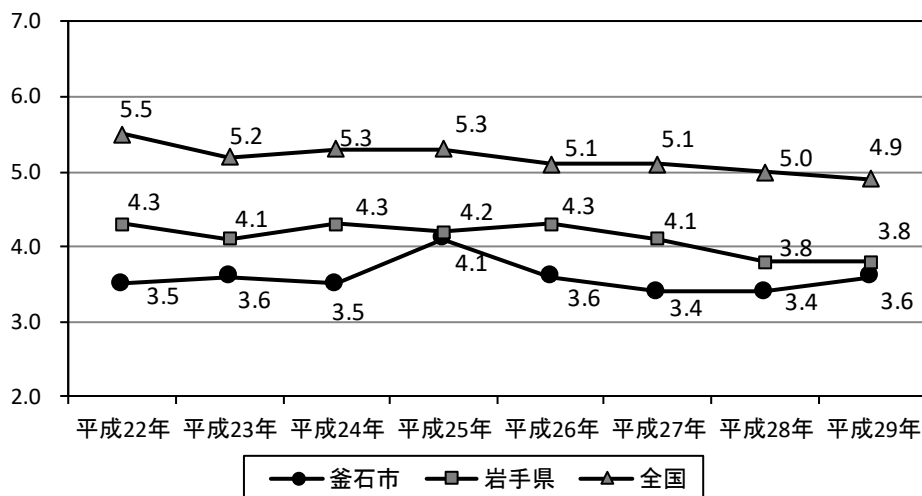
釜石市の離婚件数は、平成22年から減少していましたが平成27年に増加に転じると、平成29年は60件となっています。離婚率は平成22年と平成29年に岩手県よりも高くなっていますが、その後は全国や岩手県よりも低く推移しています。

表一婚姻率・離婚率の推移（対人口千人）

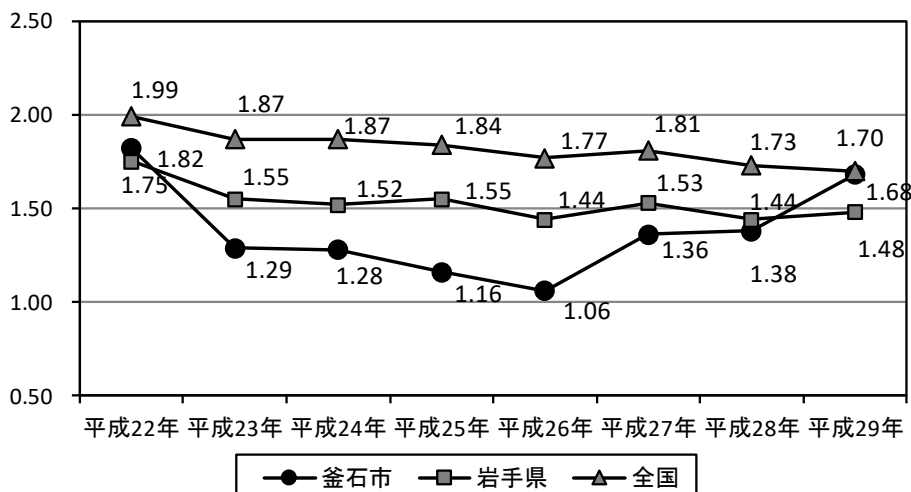
	釜石市				岩手県		全国	
	婚姻率	件数	離婚率	件数	婚姻率	離婚率	婚姻率	離婚率
平成22年	3.5	139	1.82	72	4.3	1.75	5.5	1.99
平成23年	3.6	135	1.29	48	4.1	1.55	5.2	1.87
平成24年	3.5	128	1.28	47	4.3	1.52	5.3	1.87
平成25年	4.1	147	1.16	42	4.2	1.55	5.3	1.84
平成26年	3.6	130	1.06	38	4.3	1.44	5.1	1.77
平成27年	3.4	125	1.36	50	4.1	1.53	5.1	1.81
平成28年	3.4	123	1.38	50	3.8	1.48	5.0	1.73
平成29年	3.6	128	1.68	60	3.8	1.48	4.9	1.70

資料：人口動態調査、岩手県保健福祉年報（各年10月1日現在）

婚姻率の推移(対人口千人)



離婚率の推移(対人口千人)



(2) 年少人口の動向

①出生数・出生率・合計特殊出生率の推移

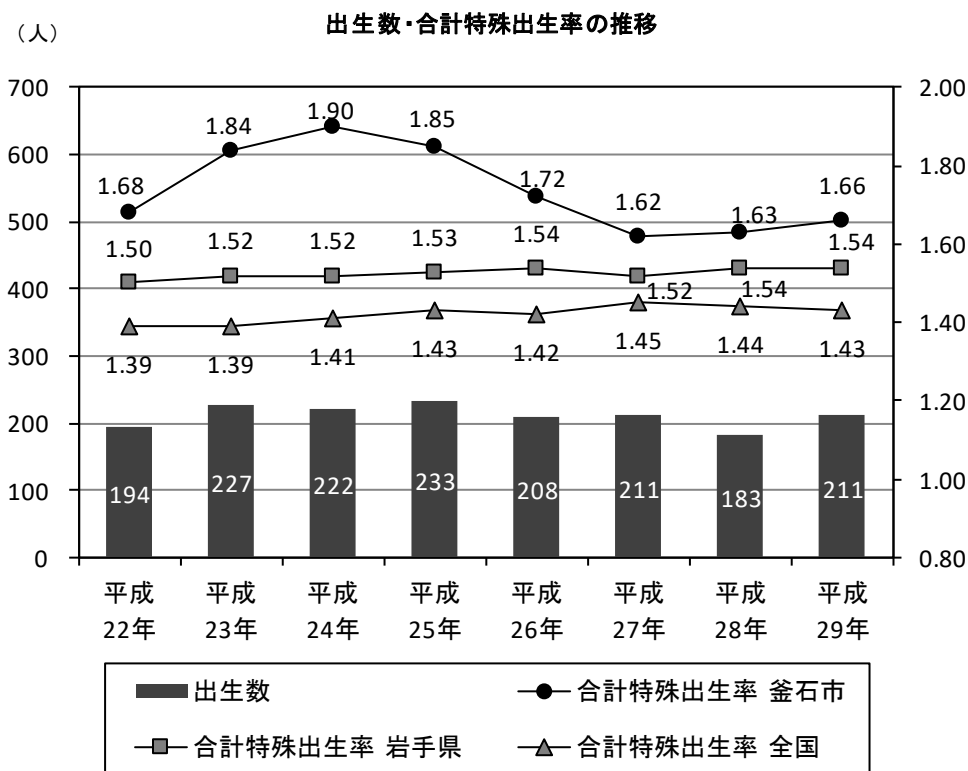
出生数は、平成25年の233人までは増加傾向にありましたが、その後は増減を繰り返し平成29年には211人となっています。

合計特殊出生率は、平成27年に1.62と最も低くなっていますが、それ以降はゆるやかに増加し平成29年は1.66となっています。全国や岩手県と比べると釜石市の合計特殊出生率は高く推移しています。

表一出生数・出生率・合計特殊出生率の推移

年		平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
出生数(人)		194	227	222	233	208	211	183	211
前年比(人)		-92	33	-5	11	-25	3	-28	28
出生率(人口1,000対)		4.9	6.1	6.0	6.4	5.8	5.7	5.0	5.9
合計特殊出生率	釜石市	1.68	1.84	1.90	1.85	1.72	1.62	1.63	1.66
	岩手県	1.50	1.52	1.52	1.53	1.54	1.52	1.54	1.54
	全国	1.39	1.39	1.41	1.43	1.42	1.45	1.44	1.43

資料：人口動態調査、岩手県保健福祉年報（各年10月1日現在）



②年齢別児童数

0～12歳の児童数の状況をみると、平成25年度から平成30年度にかけて男子が239人減、女子が231人減となっています。

表一年齢別児童数の状況

(単位：人)

年齢	男子			女子		
	25年度 A	30年度 b	増減 b-a	25年度 a	30年度 b	増減 b-a
0歳	96	82	-14	112	81	-31
1歳	106	93	-13	109	94	-15
2歳	120	92	-28	125	110	-15
3歳	87	89	2	108	94	-14
4歳	139	108	-31	132	117	-15
5歳	108	93	-15	105	102	-3
6歳	136	115	-21	127	115	-12
7歳	105	116	11	121	105	-16
8歳	142	84	-58	117	101	-16
9歳	123	132	9	128	116	-12
10歳	144	103	-41	133	98	-35
11歳	133	125	-8	135	122	-13
12歳	133	101	-32	150	116	-34
総数	1,572	1,333	-239	1,602	1,371	-231

資料：住民基本台帳（各年度末現在）

③児童数の推移

0～12歳の児童数は各年で減少し平成30年度は2,704人となっています。

表一児童数の推移

(単位：人)

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
0～12歳児	3,836	3,712	3,409	3,345	3,174	3,100	3,033	2,950	2,835	2,704
増減人数	-105	-124	-303	-64	-171	-74	-67	-83	-115	-131

資料：住民基本台帳（各年度末現在）

④0～5歳児における0歳児比率の推移

0～5歳児の人数も、0歳児の人数も増減を繰り返しながら緩やかに減少を続けています。平成21年度には0～5歳児は1,586人でしたが、平成30年度には1,155人と431人減少しています。0歳児は平成21年度には278人でしたが、平成30年度では163人と115人減少しています。

表一 就学前児童における0歳児比率の推移

(単位：人)

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
0～5歳児	1,586	1,496	1,409	1,414	1,347	1,366	1,297	1,312	1,249	1,155
0歳児	278	184	225	219	208	217	188	201	188	163
0歳児比率	17.5%	12.3%	16.0%	15.5%	15.4%	15.9%	14.5%	15.3%	15.1%	9.92%

資料：住民基本台帳（各年度末現在）

(3) 女性の就業人口の動向

①女性の就業率の推移

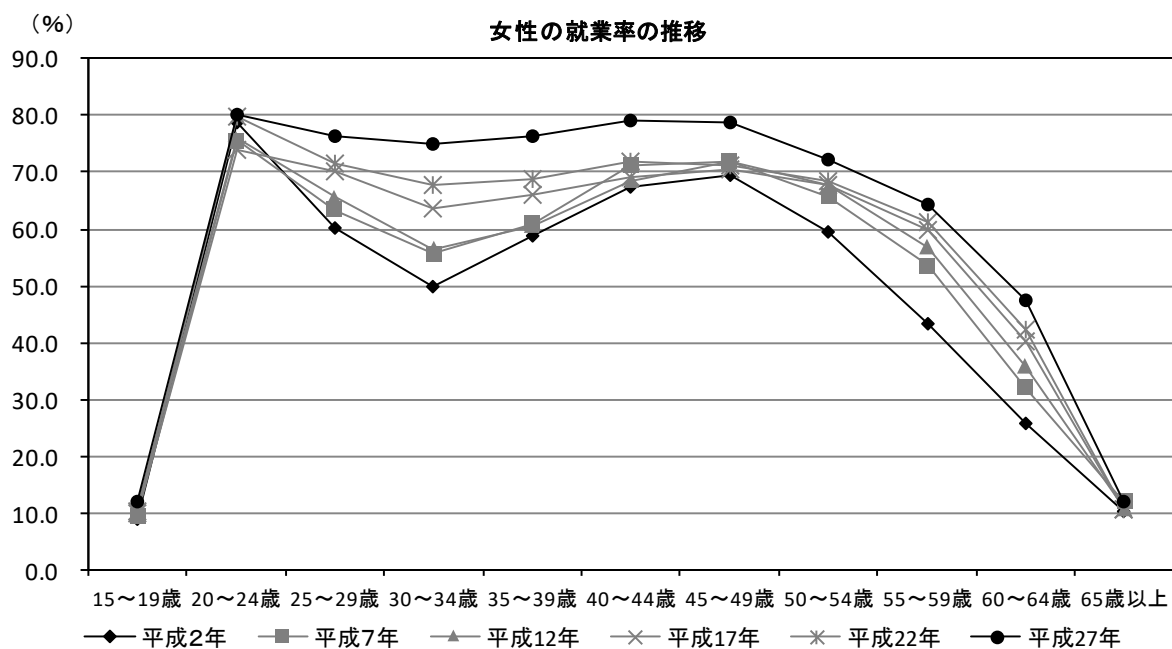
釜石市の女性の就業率は、各年齢で上昇傾向にあります。平成2年と平成27年を比べると「25～29歳」は60.0%から76.5%へ、「30～34歳」は49.8%から74.9%へ、「35～39歳」は58.8%から76.3%へと約10%以上上昇しています。グラフを見てもM字曲線がゆるやかになってきています。

表一女性の就業率の推移

(単位：%)

	15～ 19歳	20～ 24歳	25～ 29歳	30～ 34歳	35～ 39歳	40～ 44歳	45～ 49歳	50～ 54歳	55～ 59歳	60～ 64歳	65歳 以上
平成2年	9.0	78.7	60.0	49.8	58.8	67.5	69.3	59.3	43.2	25.7	10.4
平成7年	9.5	75.6	63.4	55.6	60.9	71.3	72.0	65.8	53.6	32.0	12.1
平成12年	11.0	75.9	65.6	56.5	60.6	68.5	71.9	67.7	56.8	35.8	10.9
平成17年	9.9	73.8	70.2	63.6	65.9	69.2	70.6	67.7	59.9	40.1	10.7
平成22年	10.1	79.6	71.6	67.9	68.8	72.0	71.2	68.3	61.2	42.3	10.5
平成27年	12.0	80.2	76.5	74.9	76.3	79.1	78.6	72.2	64.3	47.5	12.2

資料：国勢調査（各年10月1日現在）



2. 教育・保育サービス等の状況

(1) 教育・保育施設の状況

① 認可保育所の状況

市内に認可保育所は5か所あり、平成30年度の利用定員数は380人、在籍児童数は400人となっています。平成30年度からは、公営の保育所が認定こども園に移行したことから、すべて民間での運営となっています。

表一 認可保育所

保育所名	設置者	認可年月日	利用定員	受入年齢
釜石神愛幼児学園	社会福祉法人聖公会東北福祉会	S23.11.30	80人	生後8か月から
中妻子供の家保育園	社会福祉法人釜石愛育会	S23.11.30(現法人による設置認可 S56.10.1)	100人	生後3か月から
小佐野保育園			70人	生後8か月から
鶴住居保育園		S60.4.1	70人	生後2か月から
ピッコロ子ども倶楽部桜木園	株式会社プライムツワン	H29.4.1	60人	生後2か月から

資料：釜石市保健福祉部子ども課

表一 保育所入所定員・児童数の状況

(単位：人)

年度	利用定員			在籍児童数		
	総数	公営	民営	総数	公営	民営
26年度	520	70	450	624	74	550
27年度	400	70	330	449	78	371
28年度	430	70	360	451	75	376
29年度	490	70	420	496	73	423
30年度	380	0	380	400	0	400

資料：福祉行政報告例（各年度3月1日現在）

② 認可保育所（年齢別保育所在籍児童数の推移）

保育所在籍児童数を年齢別に見ると、保育所の認定こども園への移行の影響から各年齢ともに減少傾向となっています。

表一 年齢別保育所在籍児童数の推移

(単位：人)

年度	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
26年度	83	112	125	93	128	83	624
27年度	62	65	88	80	61	93	449
28年度	73	83	71	85	81	58	451
29年度	79	79	96	75	87	80	496
30年度	54	77	55	77	59	78	400

資料：福祉行政報告例（1・2歳児、4・5歳児は完了報告書）（各年度3月1日現在）

③小規模保育事業所の状況

平成26年度に1か所、平成27年度には2か所、令和元年度には1か所が新たに開所し、現在4か所の小規模保育事業所が開所しています。また、平成30年度時点での利用定員数は47人、在籍児童数は43人となっています。

表一 小規模保育事業所

類型	保育所名	設置者	認可年月日	利用定員	受入年齢
A型	スクルドエンジェル 保育園かまいし園	株式会社 キッズコネクト	H27.12.1 (現法人による設置 認可 H30.12.1)	19人	生後3か月から
B型	ベビーホーム・虹	特定非営利活動法人 母と子の虹の架け 橋	H26.8.1 (B型としての設置 認可 H29.6.1)	12人	生後6か月から
B型	虹の家		H27.6.1 (B型としての設置 認可 H28.7.1)	16人	生後6か月から
B型	きらきら保育園	特定非営利活動法人 きらきらぼし	R1.10.1	12人	生後6か月から

資料：釜石市保健福祉部子ども課

表一 保育所入所定員・児童数の状況

(単位：人)

年度	施設数	利用定員	0歳児	1歳児	2歳児	在籍児童数
26年度	1	15	8	2	5	15
27年度	3	44	20	13	7	40
28年度	3	50	14	20	16	50
29年度	3	47	15	16	16	47
30年度	3	47	19	14	10	43

資料：釜石市保健福祉部子ども課（各年度3月1日現在）

④認定こども園の状況

平成27年度から2か所、平成30年度から3か所の認定こども園が開所し、現在5か所の認定こども園があります。

利用定員数は平成27年度が364人でしたが、平成30年度には635人と大きく増加しています。

表一 認定こども園

類型	こども園名	運営者	認可年月日	利用定員		受入年齢
				1号	2・3号	
幼 保 連 携 型	かまいしこども園	社会福祉法人 愛泉会	H27.4.1 (現法人による保育所としての設置認可H10.3.1)	1号	25人	3歳児
	甲東こども園	学校法人 野田学園	H27.4.1 (現法人による幼稚園としての開設年度S53)	2・3号	80人	生後3か月から
				1号	104人	3歳児
上中島こども園	釜石市	H30.4.1 (保育所としての設置認可S50.5.1)	2・3号	135人	生後3か月から	
			1号	15人	3歳児	
幼 稚 園 型	正福寺幼稚園	学校法人 釜石学園	H30.4.1 (現法人による幼稚園としての開設年度S53)	2・3号	85人	生後8週から
				1号	80人	満3歳児
保 育 所 型	平田こども園	株式会社ブラ イムツーワン	H30.4.1 (現法人による保育所としての認可H28.4.1)	2号	24人	3歳児
				1号	21人	3歳児
				2・3号	66人	生後2か月から

資料：釜石市保健福祉部子ども課

表一 認定こども園入所定員・児童数の状況

(単位：人)

年度	施設数	利用定員					在籍児童数				
		総数	1号	2号	3号		総数	1号	2号	3号	
					0歳	1・2歳				0歳	1・2歳
27年度	2	364	149	135	26	54	337	114	146	18	59
28年度	2	344	129	145	14	56	324	117	143	20	44
29年度	2	344	129	145	14	56	322	115	138	15	53
30年度	5	635	245	257	29	104	515	184	202	37	92

資料：釜石市保健福祉部子ども課（各年度3月1日現在）

⑤幼稚園の状況

幼稚園では3・4・5歳児の幼児教育を行っており、預かり保育も実施しています。

園数は市立が平成26年度に3園から2園に、平成30年度には2園から1園になっています。私立は認定こども園への移行により平成27年度に2園から1園に、平成30年度には1園から0園に減少しています。在籍児数も定員に比べ少ない状況です。

表一 幼稚園

(単位：施設、人)

幼稚園名	設置者	開設年度	認可定員	利用定員
鶴住居幼稚園	釜石市	昭和54年度	85人	46人

表一 幼稚園の状況

(単位：施設、人)

年度	市立			私立			在園 児童数計
	園数	認可定員	在園児数	園数	認可定員	在園児数	
26年度	2	170	77	2	300	243	320
27年度	2	170	75	1	150	88	163
28年度	2	170	62	1	150	67	129
29年度	2	170	68	1	150	69	137
30年度	1	85	27	0	0	0	27
元年度	1	85	18	0	0	0	18

資料：学校基本調査（各年度5月1日現在）

⑥特別保育事業の状況

ア 延長保育

市内の4か所の認定こども園及び5か所の認可保育所で延長保育を行っています。

表－延長保育の状況

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
施設数	7	7	8	9	9
利用児童数（人）	319	336	342	331	319

資料：延長保育事業資料（各年度末現在）

イ 障がい児保育

釜石市では、保護者の就労などにより家庭での保育にかけられる障がい児で、集団保育が可能な幼児をすべての教育・保育施設で受け入れています。

利用児童数は、10人以下で推移しています。

表－障がい児保育の状況

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
施設数	2	2	2	5	7
軽度障がい児	1	1	3	4	5
重度障がい児	3	5	0	3	4

資料：教育・保育施設等振興事業（平成27年度までは特別支援保育事業・教育振興事業）（各年度末現在）

ウ 病児保育

市では平成21年10月1日から病児保育事業（病後児対応型）を開始し、平成28年度までは社会福祉法人釜石愛育会へ、平成29年度からは株式会社プライムツーワンへ委託し、病後児保育室ほほえみ（ピッコロ子ども倶楽部桜木園内）を開設しています。対象は、病気の回復期にあつて病後児保育室の利用が可能であると医師が認める概ね1歳から小学校3年生までの子どもで、月曜日から金曜日までの午前8時から午後5時30分まで利用できます。利用にあつては、事前登録、医師の診察や利用の予約、利用料金が必要となります。

延べ利用児童数は、平成26年度から平成28年度までは60人台で推移してきましたが、平成29年度には10人、平成30年度には20人となっています。

平成31年度から、鶴住居保育園に委託し、体調不良児対応型の病児保育事業にも取り組んでいます。

表－病児保育（病後児対応型）の状況

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
施設数	1	1	1	1	1
延べ利用児童数（人）	64	68	62	10	20

資料：病児保育事業（病後児対応型）（各年度末現在）

⑦就学前児童の児童発達支援の状況

市内には2つの児童発達支援事業所があり、心身の発達に心配のある乳幼児を小集団で保育することにより、年齢に応じた身体や情緒、社会的発達等を支援していくことを目的に療育を提供しています。

表一児童発達支援（未就学児）の設置状況

施設名	設置者	定員/日*	開設日時	事業開始年度
釜石市 すくすく親子教室	釜石市	20人	月曜日～金曜日 10:00～12:00、13:00～15:00	昭和63年度
児童デイサービス さんこま	一般社団法人 三陸駒舎	10人	月・火・水・金・土 9:30～12:00	平成29年度

※多機能事業所としての定員
資料：釜石市保健福祉部子ども課

表一就学前児童の児童発達支援の状況

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
施設数	1	1	1	2	2
利用児童数（人）	26	24	24	25	34

資料：釜石市保健福祉部子ども課（各年度末現在）

⑧事業所内保育施設の状況

市内では3つの事業所が保育施設を設置し、職員の子ども等の保育を行っています。平成30年度の利用児童数は25人となっています。

表一事業所内保育施設の状況

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
施設数	2	2	3	3	3
利用児童数（人）	26	35	28	26	25

資料：釜石市保健福祉部子ども課（各年度10月1日現在）

⑨地域子育て支援拠点の状況

市内には、4つの子育て支援センターがあり、子育て家庭の育児不安などの各種相談、親子の交流・遊びの場の提供、子育てサークル活動への支援等を行っています。利用料は各施設とも無料です。

表一地域子育て支援拠点（子育て支援センター）設置状況

施設名	所在地	実施内容	開設日時
甲子子育て支援センター	釜石市甲子町 8-178-30 (ふれあい交流センター清風園内)	子育て相談 交流・遊びの場の提供 子育てに関する情報提供 地域支援活動 等	月曜日～金曜日 10:00～16:00
中妻子供の家子育て支援センター	釜石市中妻町 1-13-22(中妻子供の家保育園内)	子育て相談 子育てサークル 交流・遊びの場の提供 子育てに関する情報提供 等	月曜日～土曜日 9:30～16:00
かまいしこども園子育て支援センター	釜石市天神町 2-13(かまいしこども園内)	子育て相談 交流・遊びの場の提供 子育てに関する情報提供 地域支援活動 等	月曜日～土曜日 9:00～16:00
鶴住居保育園子育て支援センター	釜石市鶴住居町 3-10(鶴住居保育園内)	子育て相談 子育てサークル 交流・遊びの場の提供 子育てに関する情報提供 等	月曜日～土曜日 9:30～16:00

表一地域子育て支援拠点（子育て支援センター）の状況

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
利用延べ人数	16,970	14,809	13,976	11,067	10,094
相談件数	265	213	250	107	153

資料：地域子育て支援拠点事業（各年度末現在）

⑩学童育成クラブの状況

昼間保護者のいない家庭の放課後児童健全育成のため、学童育成クラブが設置されています。

令和元年度は、施設数が11施設、登録児童数が556人となっています。

学童育成クラブに登録する児童数の割合は、増加傾向であり、平成31年度は、42.1%となっています。

表一学童育成クラブの状況

名称	所在地	登録児童数	備考
鵜住居学童育成クラブ	鵜住居町 13-20-3	68	鵜住居小学校内
白山学童育成クラブ	嬉石町 3-6-1	23	
平田学童育成クラブ	大字平田 4-2	53	
唐丹学童育成クラブ	唐丹町字小白浜 314	31	唐丹小中学校内
釜石学童育成クラブ	大渡町 3-14-8	48	釜石小学校内
双葉学童育成クラブ	新町 1-58	53	双葉小学校内
小佐野第一学童育成クラブ	小佐野町 3-5-37	66	
小佐野第二学童育成クラブ		67	
上中島学童育成クラブ	上中島町 3-5-19	30	
甲子学童育成クラブ	甲子町 9-87-3	109	
栗林学童育成クラブ	栗林町 16-46	8	
計	11 施設	556	

資料：釜石市保健福祉部子ども課（令和元5月1日現在）

表一学童育成クラブ登録児童数

（単位：人）

名称	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
鵜住居学童育成クラブ	57	63	62	54	53	68
白山学童育成クラブ	25	29	25	28	23	23
平田学童育成クラブ	61	43	40	40	48	53
唐丹学童育成クラブ	23	24	28	26	31	31
釜石学童育成クラブ	45	54	55	57	58	48
双葉学童育成クラブ	71	67	66	65	67	53
小佐野第一学童育成クラブ	48	49	58	62	58	66
小佐野第二学童育成クラブ	51	49	63	61	60	67
上中島学童育成クラブ	43	34	47	31	33	30
甲子学童育成クラブ	86	103	110	97	106	109
栗林学童育成クラブ	8	7	7	10	8	8
計	518	522	561	531	545	556

資料：釜石市保健福祉部子ども課（各年度5月1日現在）

表-小学校児童数における学童育成クラブ登録児童数の割合

名称	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
学童育成クラブ登録児童数	529	518	522	561	531	545	556
小学校児童数	1,570	1,518	1,461	1,448	1,372	1,320	1,321
学童育成クラブ登録児童割合	33.7%	34.1%	35.7%	38.7%	38.7%	41.3%	42.1%

資料：釜石市保健福祉部子ども課（各年度5月1日現在）

⑪ファミリー・サポート・センター事業の状況

ファミリー・サポート・センターの会員数は、平成30年度でサポーター会員が20人、ユーザー会員は40人となっています。

預かり児童数において、平成30年度は115人となっています。

表-ファミリー・サポート・センターの会員数等

(単位：人)

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
会員	55	59	59	68	60
サポーター会員	9	6	14	15	20
ユーザー会員	46	53	45	53	40
活動件数	192	210	93	117	121
預かり児童数	4,071	4,670	165	195	115
学童クラブの補助関係	3,993	4,515	0	0	0
上記以外	78	155	165	195	115

資料：釜石市保健福祉部子ども課（各年度末現在）

⑫就学児童等の放課後デイサービスの状況

市内には3つの放課後等デイサービス事業所があり、心身の発達に心配のある児童や生徒の放課後や長期休暇中の療育の場、放課後等の居場所となっています。

表一放課後等デイサービスの設置状況

施設名	設置者	定員/日※	開設日時	事業開始年度
釜石市 すくすく親子教室	釜石市	20人	月曜日～金曜日 13:00～17:00	昭和63年度
児童デイサービス さんこま	一般社団法人 三陸駒舎	10人	月・火・水・金・土 13:00～18:00	平成29年度
相談支援事業所 ライトハウス	特定非営利活動法人 障がい自立センターかまいし	10人	月曜日～金曜日 9:00～18:00	令和元年度

※多機能事業所としての定員

資料：釜石市保健福祉部子ども課

表一放課後等デイサービスの状況

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
施設数	1	1	1	1	2
利用児童数(人)	16	16	15	12	24

資料：釜石市保健福祉部子ども課（各年度末現在）

⑬支援が必要な子どもの一時預かりの状況

ア. タイムケア（日中一時支援）

市内には4つのタイムケア事業所があり、発達支援が必要な子どもの保護者の就労等支援のため、放課後や長期休暇中の活動の場となっています。

表ータイムケア（日中一時支援）の設置状況

施設名	設置者	対象者	開設日時	事業開始年度
地域活動支援センター ふるはーと	社会福祉法人豊心会	就学児	月曜日～金曜日 8:30～17:30	平成20年度
地域活動支援センター 釜石	医療法人仁医会	就学児	月曜日～土曜日 9:30～16:30	平成20年度
まりん	特定非営利活動法人 障がい自立センターかまいし	就学児	月曜日～金曜日 10:00～16:00	平成25年度
相談支援事業所 ライトハウス	特定非営利活動法人 障がい自立センターかまいし	未就学児 就学児	月曜日～金曜日 9:00～17:00	平成28年度

資料：釜石市保健福祉部地域福祉課

表ータイムケア（日中一時支援）の状況

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
施設数	3	3	4	4	4
利用児童数（人）	15	17	35	40	53

資料：釜石市保健福祉部地域福祉課（各年度末現在）

イ. 障がい者日中一時支援（短期入所）

市内には3つの障がい者日中一時支援の事業所があり、障がい者の家族の就労等支援及び介護負担の軽減のため、一時的に障がいのある方を預かります。

表ー障がい者日中一時支援（短期入所）の設置状況

施設名	設置者	対象者	事業開始年度
大松	社会福祉法人豊心会	就学児	平成20年度
独立行政法人 国立病院機構釜石病院	独立行政法人 国立病院機構釜石病院	就学児	平成20年度
まりん	特定非営利活動法人 障がい自立センターかまいし	就学児	平成25年度

資料：釜石市保健福祉部地域福祉課

表ー障がい者日中一時支援（短期入所）の状況

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
施設数	3	3	3	3	3
利用児童数（人）	4	2	2	2	2

資料：釜石市保健福祉部地域福祉課（各年度末現在）

(2) 就学の状況

① 小学校の状況

小学校は統合の結果9校となっています。児童数は減少し続けており、平成26年度は1,518人でしたが、令和元年度では1,321人となっています。

表一 小学校の状況

学校名	所在地	児童数	備考
釜石小学校	大渡町 3-14-8	127	平成 15 年 4 月 1 日大渡小、釜石小が統合。
双葉小学校	新町 1-58	189	平成 14 年 4 月 1 日八雲小、中妻小が統合。
白山小学校	嬉石町 3-6-1	32	
平田小学校	大字平田 4-2	153	平成 22 年 4 月 1 日尾崎小学校と統合。
小佐野小学校	小佐野町 3-5-37	318	平成 17 年 4 月 1 日小佐野小、小川小が統合。
甲子小学校	甲子町 9-87	260	平成 19 年 4 月 1 日甲子小、大松小が統合。
鶴住居小学校	鶴住居町 13-20-3	154	平成 19 年 4 月 1 日鶴住居小、箱崎小が統合、平成 22 年 4 月 1 日白浜小学校と統合。
栗林小学校	栗林町 16-46	44	平成 22 年 4 月 1 日橋野小と統合。
唐丹小学校	唐丹町字小白浜 314	44	平成 13 年 4 月 1 日唐丹小、大石小が統合。
計	9校	1,321	

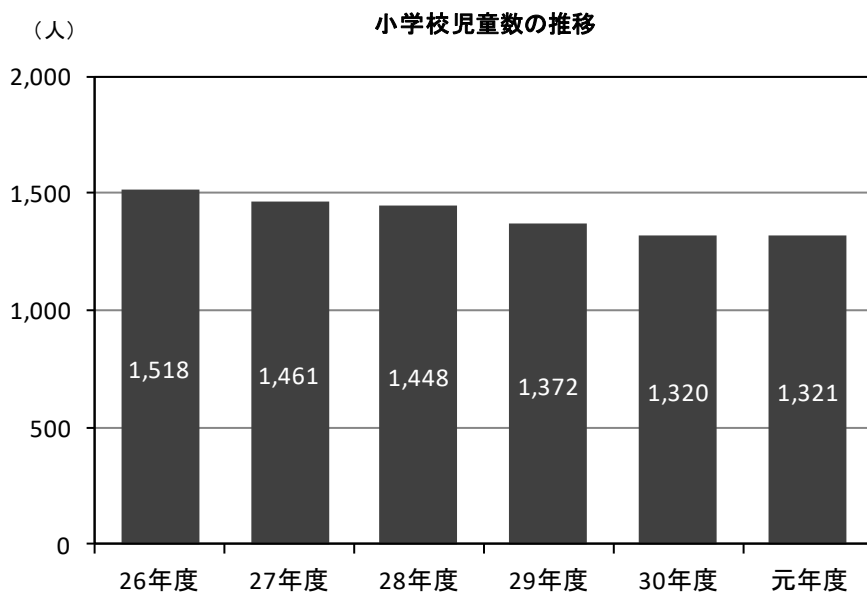
資料：学校基本調査（令和元年5月1日現在）

表一 小学校児童数の推移

(単位：人)

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
釜石小学校	127	118	126	127	129	127
双葉小学校	258	248	250	214	214	189
白山小学校	50	51	50	44	32	32
平田小学校	174	175	163	151	155	153
小佐野小学校	309	307	319	323	302	318
甲子小学校	316	292	290	279	261	260
鶴住居小学校	181	170	149	141	138	154
栗林小学校	45	47	48	48	43	44
唐丹小学校	58	53	53	45	46	44
計	1,518	1,461	1,448	1,372	1,320	1,321

資料：学校基本調査（各年5月1日現在）



②中学校の状況

中学校は全部で5校あります。生徒数は年々減少しており、平成 26 年度は 904 人でしたが、令和元年度は 691 人となっています。

表一 中学校の状況

学校名	所在地	生徒数	備考
釜石中学校	中妻町 1-6-8	307	平成 18 年 4 月 1 日釜石第一中、釜石第二中、小佐野中が統合。
甲子中学校	甲子町 9-156	152	
釜石東中学校	鶉住居町 13-20-3	99	平成 19 年 4 月 1 日釜石東中、橋野中が統合。
唐丹中学校	唐丹町字小白浜 314	32	
大平中学校	大平町 3-6-1	101	
計	5校	691	

資料：学校基本調査（令和元年5月1日現在）

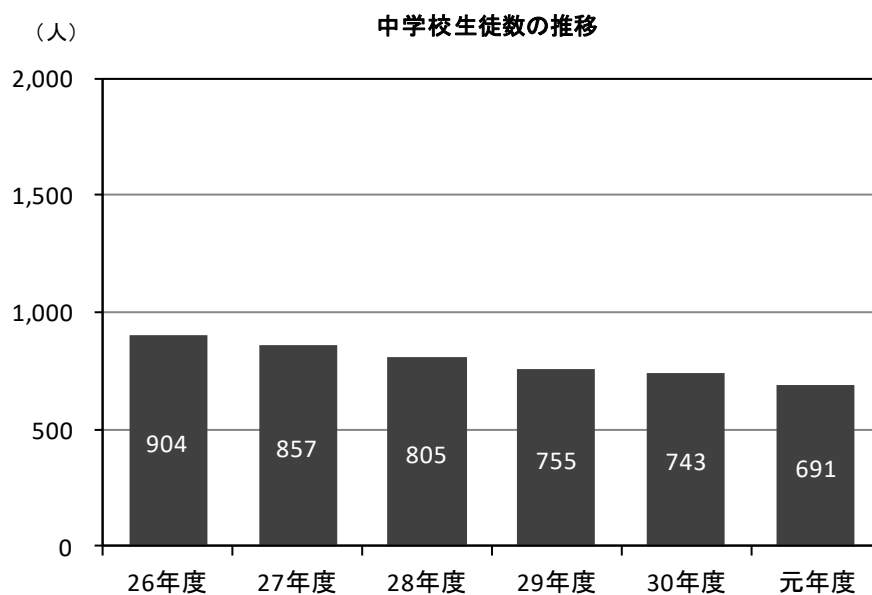
第2章 釜石市の子育てを取り巻く現状と課題

表一 中学校生徒数の推移

(単位：人)

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
釜石中学校	384	372	349	331	316	307
甲子中学校	182	189	179	164	164	152
釜石東中学校	159	143	133	117	117	99
唐丹中学校	34	30	32	35	35	32
大平中学校	145	123	112	108	111	101
計	904	857	805	755	743	691

資料：学校基本調査（各年5月1日現在）



③高等学校の状況

高等学校は2校あります。生徒数は平成26年度は943人でしたが、令和元年度には808人となっています。

表一 高等学校の状況

学校名	所在地	生徒数	備考
釜石高等学校	甲子町 10-614-1	480	H20.4.1 釜石南高、釜石北高が統合
釜石高等学校（定時制）	甲子町 10-614-1	27	
釜石商工高等学校	大平町3-2-1	301	H21.4.1 釜石工業高、釜石商業高が統合
計	2校	808	

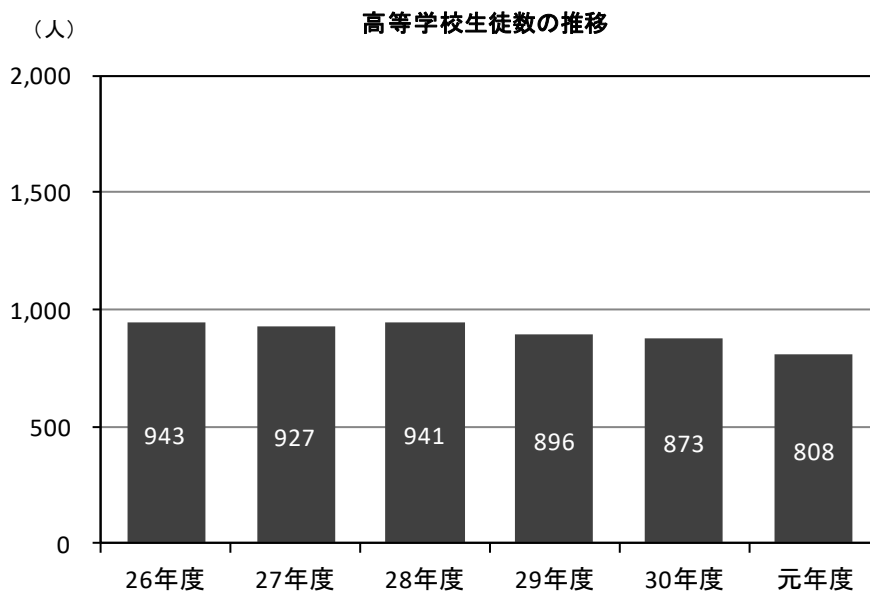
資料：学校基本調査（令和元年5月1日現在）

表一 高等学校生徒数の推移

（単位：人）

学校名	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
釜石高等学校	521	534	532	510	490	480
釜石高等学校（定時制）	27	32	35	36	43	27
釜石商工高等学校	395	361	374	350	340	301
計	943	927	941	896	873	808

資料：学校基本調査（各年5月1日現在）



④特別支援学校の状況

釜石祥雲支援学校では、小学部 18 人、中学部 15 人、高等部 32 人の合わせて 65 人が在籍しています。

表一特別支援学校の状況

学校名	所在地	児童生徒数	備考
釜石祥雲支援学校	定内町 4-9-5	65	H20.4.1 釜石養護学校から校名変更

資料：学校基本調査（令和元年5月1日現在）

表一特別支援学校児童・生徒数の推移

（単位：人）

学校名	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
釜石祥雲支援学校	63	54	58	56	60	65

資料：学校基本調査（各年5月1日現在）

(3) 児童厚生施設等の状況

①児童館の状況

児童に健全な遊びの場を与え、健康増進や情操教育を行う児童館は、小学校の児童と、3歳児以降の幼児の保育を行っています。

児童館には、教育要領や保育指針の適用はありませんが、発達や成長に応じた教育や保育を行い、幼稚園や保育所と共通の役割を担っています。

児童館は市内に4か所ありますが、そのうち、2か所の児童館（混合型）の保育児童数は各年で減少し令和元年度は10人となっています。

表一児童館の状況

名称	所在地	形態	登録児童数	保育児童数	設置年月日
鶴住居児童館	鶴住居町 13-20-3	健全型	68	-	H14.4.1
唐丹児童館	唐丹町字小白浜 314	混合型	31	7	H12.4.1
栗林児童館	栗林町 8-51	混合型	-	3	S48.4.1
上中島児童館	上中島町 3-5-19	健全型	30	-	S52.4.1
計	4 施設		129	10	

資料：釜石市保健福祉部子ども課（令和元年5月1日現在）

表一児童館（保育型）の状況

(単位：施設、人)

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
施設数	2	2	2	2	2	2
在籍児童数	31	24	24	19	18	10

資料：釜石市保健福祉部子ども課（各年度5月1日現在）

②児童遊園の状況

児童に健全な遊び場を提供するため、児童遊園を6か所設置しており、利用者の利便と安全を確保するため施設の維持管理を行っています。市内にはこの他、子どもの遊び場となる場所として、都市公園を49か所、広場を2か所設置しています（うち4か所に、現在仮設住宅等有）。

表一児童遊園の状況

施設名	所在地	面積 (㎡)	設置年月日
大松西児童遊園	甲子町 3-139	1,341	S60.7.1
福祉の森児童遊園	甲子町 8-178-29	2,041	S51.4.1
小川児童遊園	小川町 1-5	540	S52.10.1
鈴子児童遊園	鈴子町 31-2	108	S60.7.1
大平児童遊園	大平町 1-6-16	671	S36.1.1
大松児童遊園	甲子町 3-161-2	516	S52.12.1

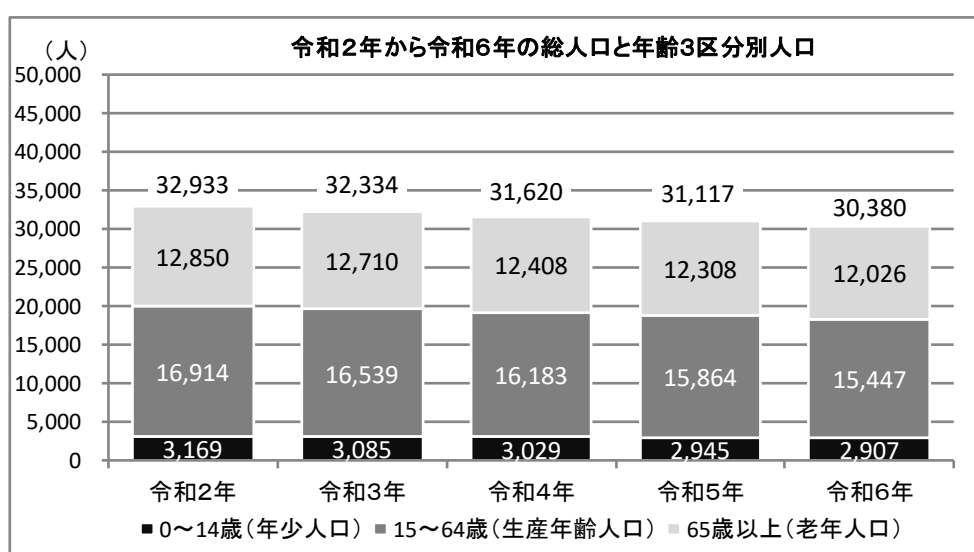
資料：釜石市保健福祉部子ども課

3. 人口推計

(1) 総人口等の推移

令和2年から6年までの総人口の推移を見ると、各年で減少し、令和6年は30,380人となっており計画期間中に2,553人減少すると予測されます。

年齢3区分別人口でも、年少人口、生産年齢人口、老年人口ともに減少をしており、計画期間中に年少人口が262人、生産年齢人口が1,467人、老年人口が824人減少すると予測されています。



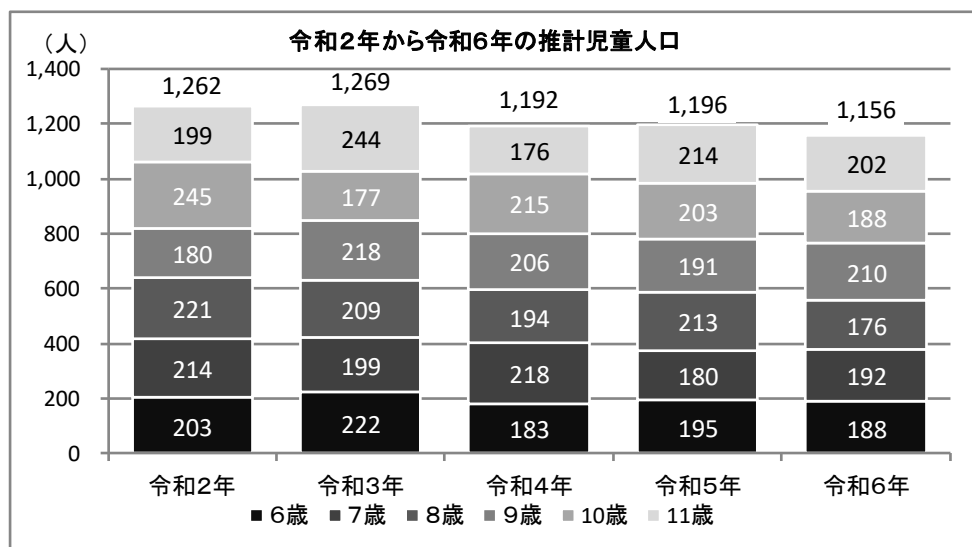
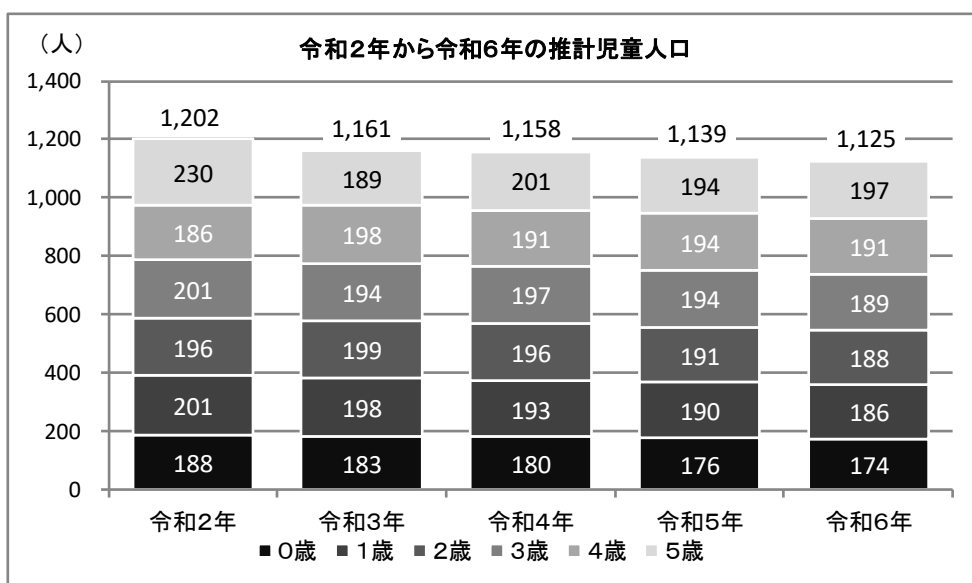
※本計画では、人口推計結果をもとに、「幼児期の学校教育・保育」及び「地域子ども・子育て支援事業」の事業量を算定するため、住民基本台帳人口の3月末時点の実績を基に、コーホート変化率法によって推計を行いました。

※コーホート変化率法とは、各コーホート(同時出生集団)について、過去における実績人口の動勢から「変化率」を求め、それに基づき将来人口を推計する方法です。

(2) 児童数の推移

令和2年から令和6年までの推計児童数をみると、各年齢で増減はありますが、全体的に児童数は減少傾向にあります。

0歳から5歳の人口は令和2年には1,202人でしたが令和6年には1,125人に減少し、6歳から11歳の人口は令和2年には1,262人でしたが令和6年には1,156人に減少すると予測されます。



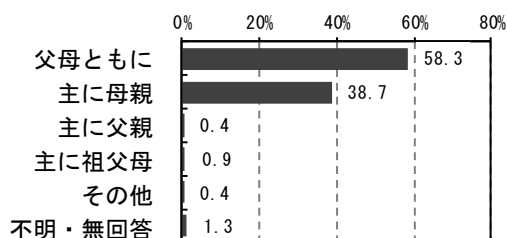
4. ニーズ調査結果の概要

平成30年12月3日から12月17日を調査期間とし、就学前児童の保護者968人を対象に郵送や通園（所）している施設を通して調査票を配付し、子育てや子育て支援等に関する状況や意向の把握に努めました。

■配付・回収数、回収率

配付数	回収数	回収率
968票	545票	56.3%

①子育て(教育を含む)を主に行っている人

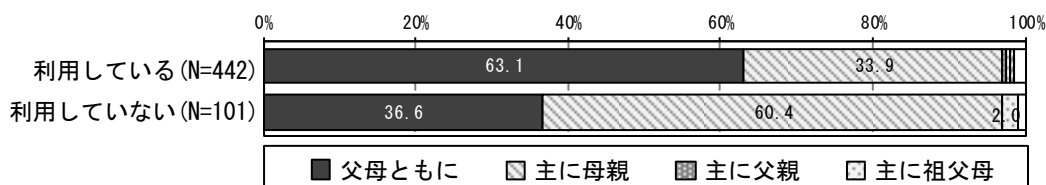


「父母ともに」が58.3%

「主に母親」が38.7%

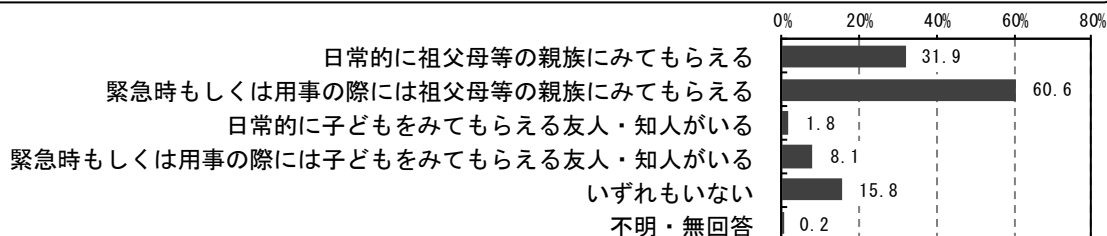
※定期的な教育・保育事業を使っていない場合には、「主に母親」が60.4%

【教育・保育事業の利用状況×主に子育てしている人】



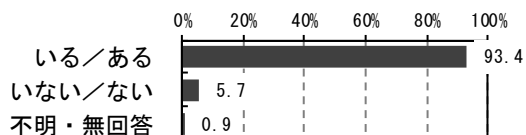
②子どもをみてもらえる親族・知人

「いずれもない」が15.8%



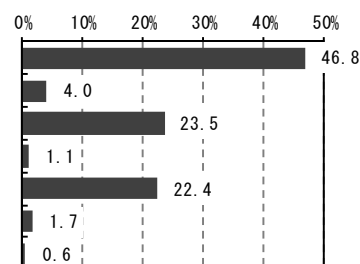
③子育てをする上での相談相手や相談場所の有無

相談相手や相談場所がある人は93.4% ※前回調査では94.5%



④母親の就労状況

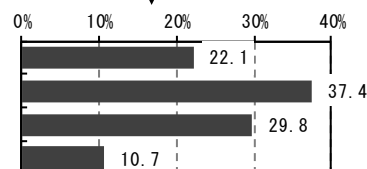
フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない
 フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である
 パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない
 パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である
 以前は就労していたが、現在は就労していない
 これまで就労したことがない
 不明・無回答



・フルタイム(50.8%) ・パートアルバイト等(24.6%) **未就労(24.1%)**
 前回調査値：フルタイム(45.0%)、パートアルバイト等(20.5%)

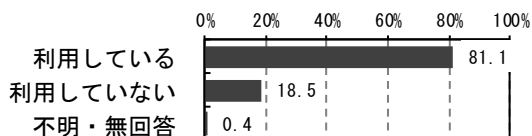
⑤母親の就労希望

子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）
 1年より先、一番下の子どもが0歳になったころに就労したい
 すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい
 不明・無回答



・就労希望あり(1年以内)→29.8% ・就労希望あり(1年より先)→37.4%
 ・就労希望なし→22.1%

⑥教育・保育事業の利用状況

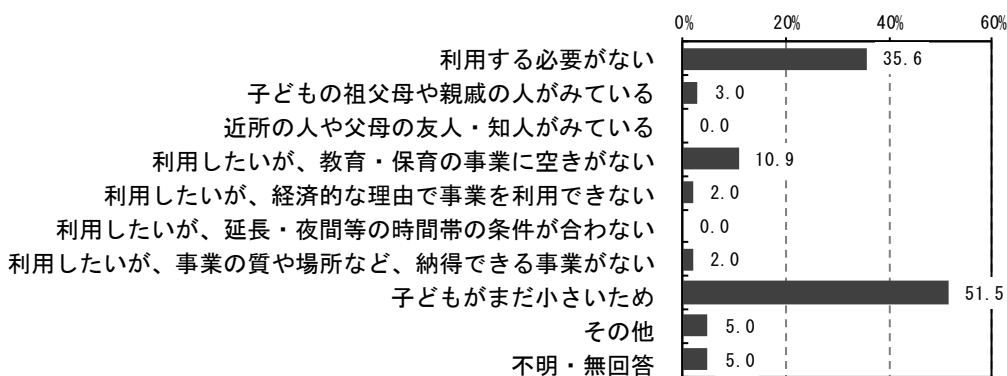


約8割が教育・保育事業を利用

- ・0歳→11.9%
- ・1歳→67.1%
- ・2歳→80.2%
- ・3歳→76.7%
- ・4歳→97.8%
- ・5歳→100.0%
- ・6歳→100.0%

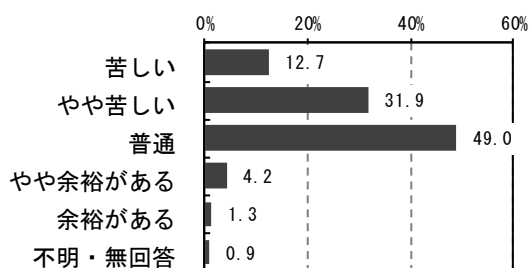
参考) ひとり親世帯は100.0%

⑦教育・保育事業を利用していない理由



- 1位 子どもがまだ小さいため(51.5%)
- 2位 利用する必要がある(35.6%)
- 3位 利用したいが、教育・保育の事業に空きがない(10.9%)

⑧経済状況

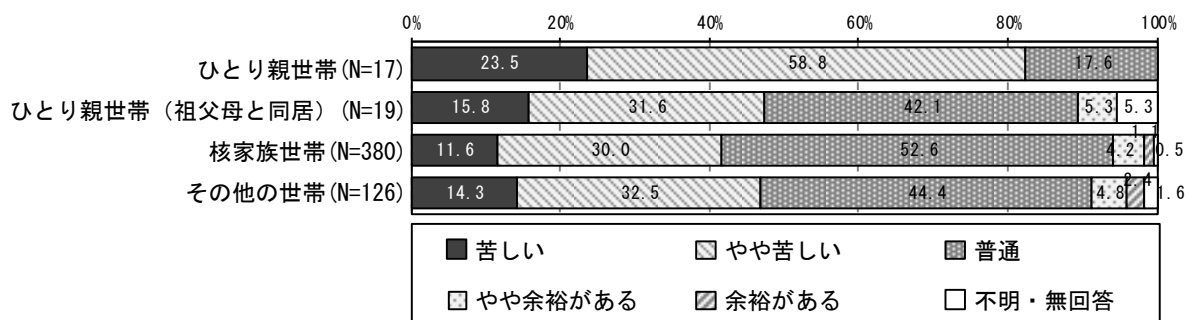


苦しい（「苦しい」＋「やや苦しい」）が44.6%

家族構成では、ひとり親世帯のほうが比較的に「苦しい」と回答する傾向が見られる。

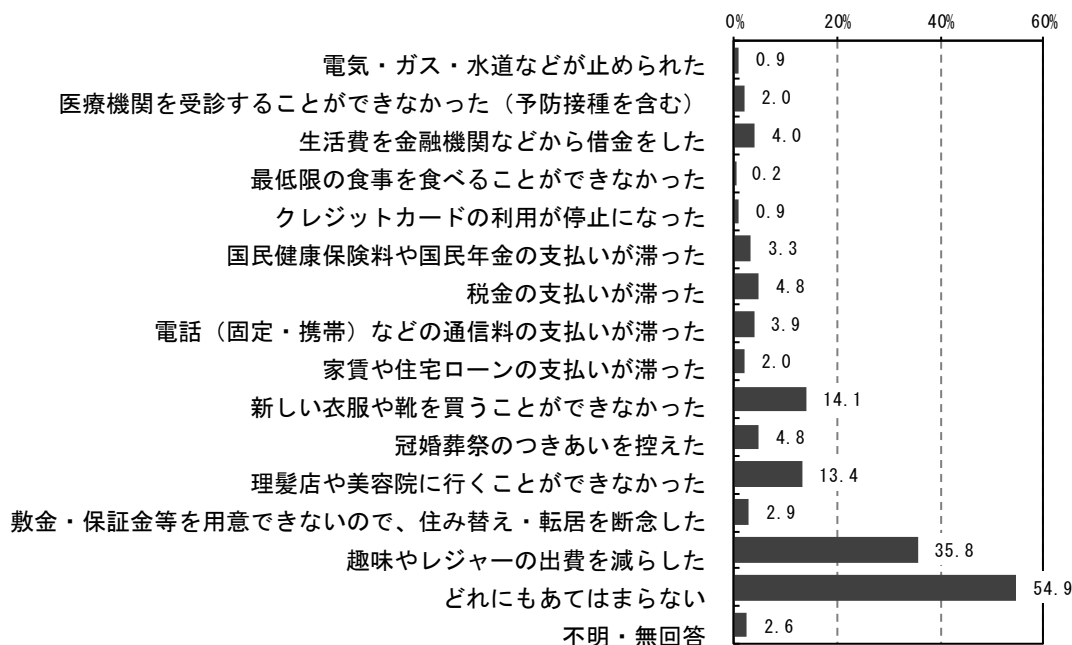
世帯収入では、収入が低いほど比較的に「苦しい」と回答する傾向が見られる。

【家族構成×経済状況】



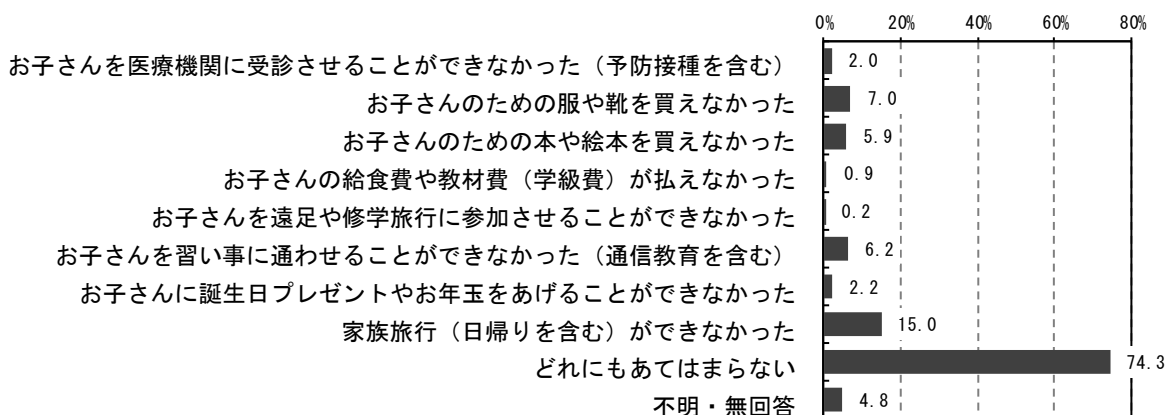
⑨経済的理由による経験

「どれにもあてはまらない」が54.9%で最も多くなっているものの、「趣味やレジャーの出費を減らした」(35.8%)や「新しい衣服や靴を買うことができなかった」(14.1%)など、おおむね1年間に経済的理由で下記のような経験をしている家庭も見られます。



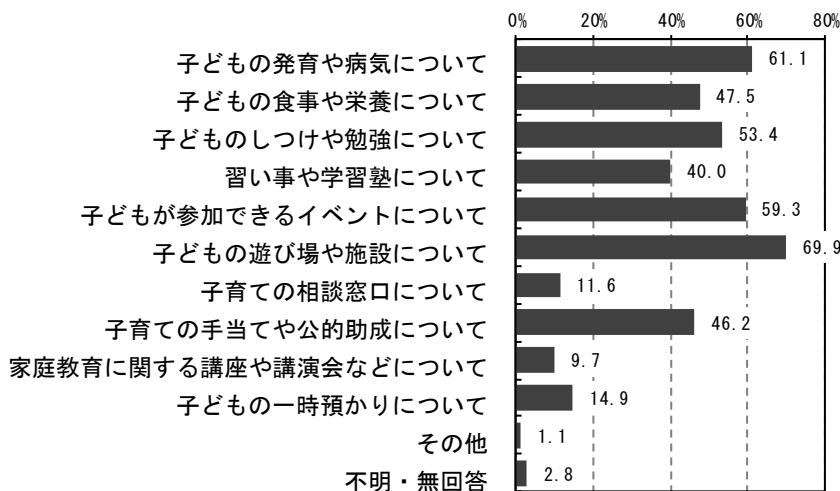
⑩経済的理由による経験 (子)

「どれにもあてはまらない」が74.3%で最も多くなっているものの、「家族旅行 (日帰りを含む) ができなかった」(15.0%)や「お子さんのための服や靴を買えなかった」(7.0%)など、おおむね1年間に経済的理由で下記のような経験をしている家庭も見られます。



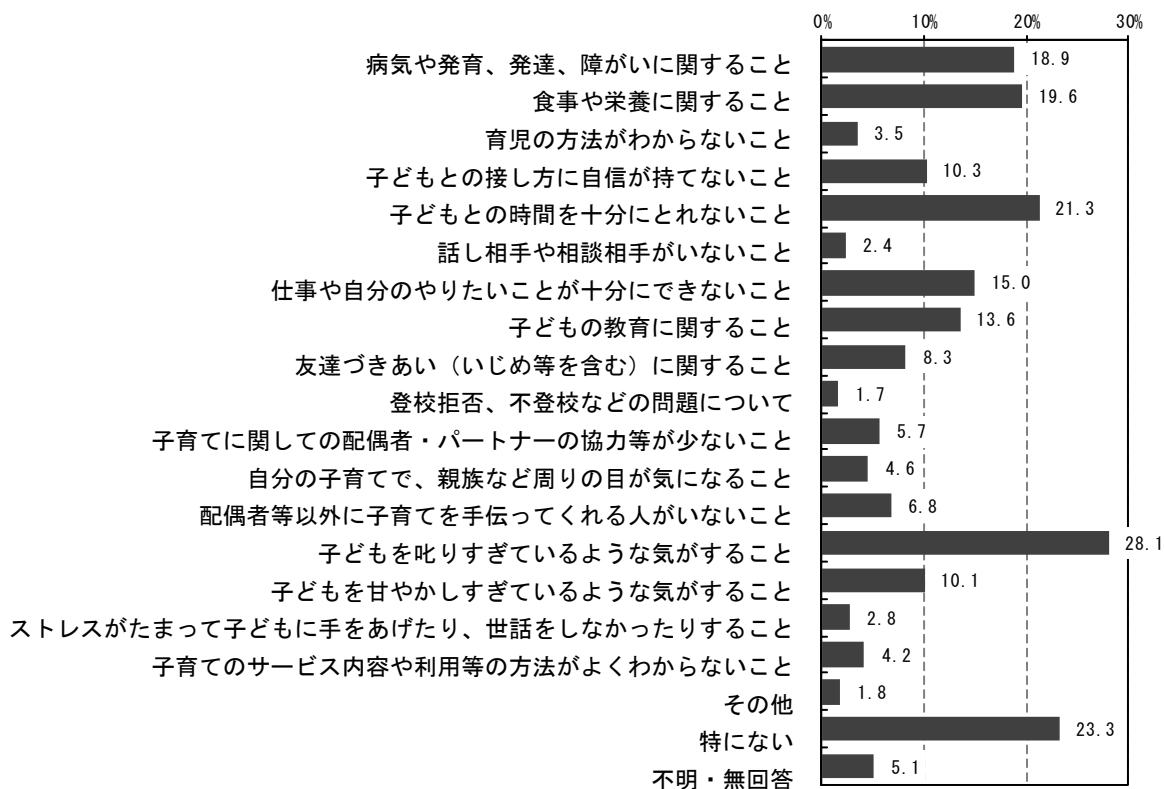
⑪ 欲しい情報

- 1位 子どもの遊び場や施設について(69.9%)
- 2位 子どもの発育や病気について(61.1%)
- 3位 子どもが参加できるイベントについて(59.3%)



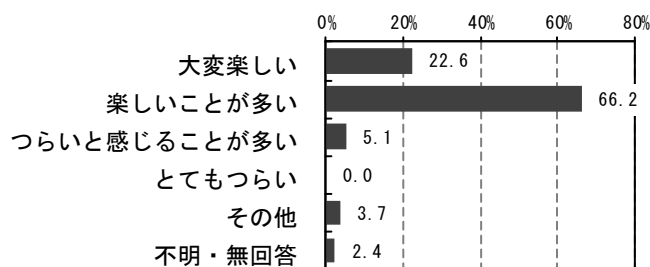
⑫ 子育てに関して悩んでいること

- 1位 子どもを叱りすぎているような気がする(28.1%)
- 2位 子どもとの時間を十分にとれないこと(21.3%)
- 3位 食事や栄養に関する(19.6%)



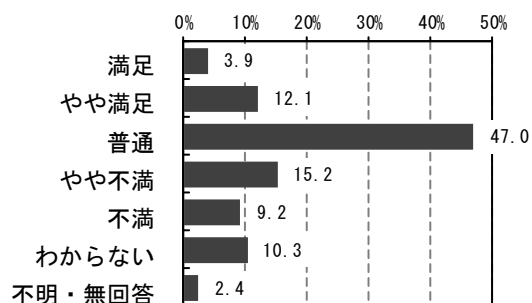
⑬子育ての楽しさ

子育てが楽しい（「大変楽しい」＋「楽しいことが多い」）は88.8%



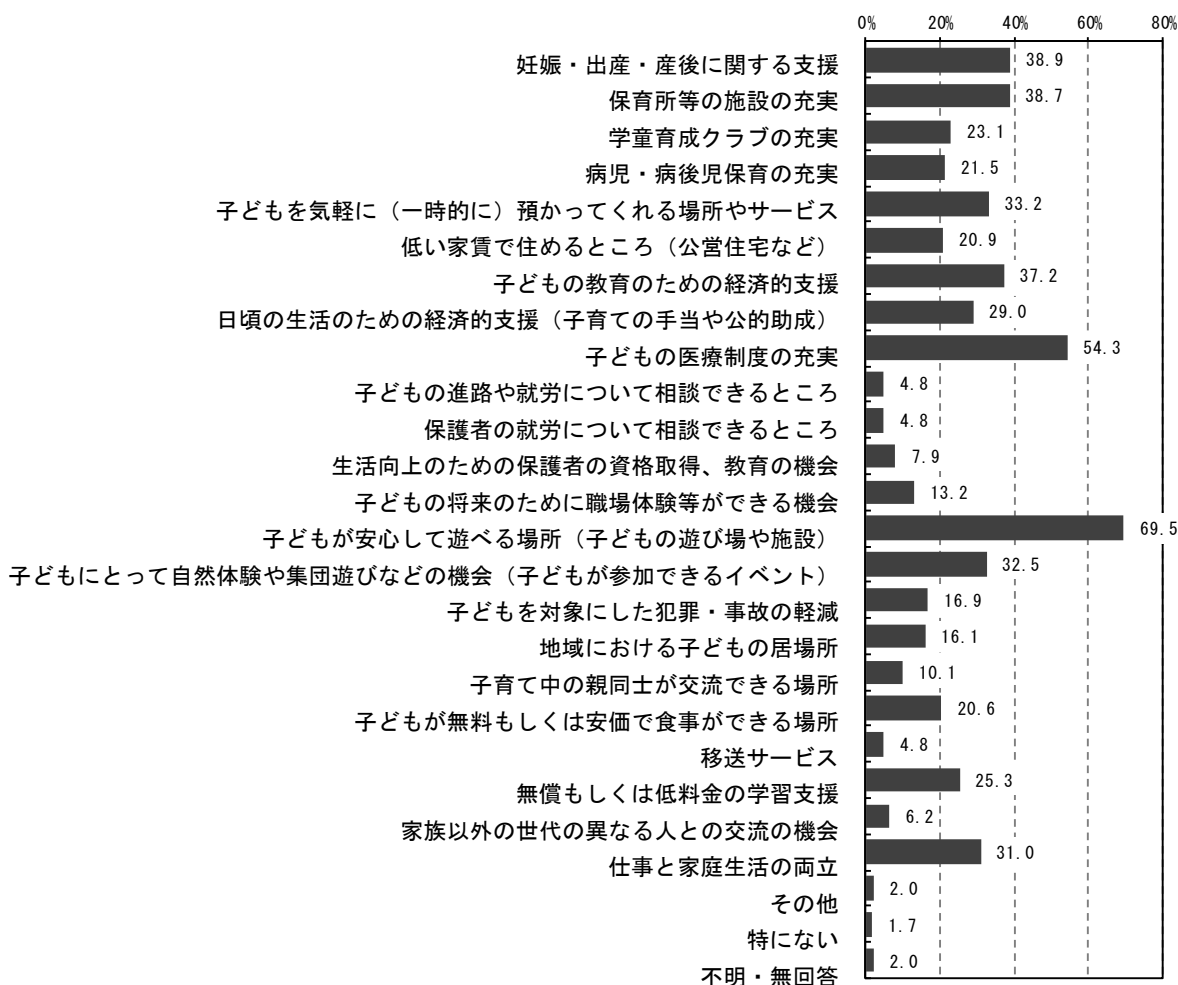
⑭子育て支援の満足度

「普通」が47.0%、「満足」が3.9%、「やや満足」が12.1%、『普通以上』が63.0%



⑮充実を望む支援策

- 1位 子どもが安心して遊べる場所（子どもの遊び場や施設）(69.5%)
- 2位 子どもの医療制度の充実(54.3%)
- 3位 妊娠・出産・産後に関する支援(38.9%)



5. ヒアリング調査結果の概要

本計画を策定するにあたり実施した「子ども・子育て支援事業計画に関するニーズ調査」の結果を受け、具体的な保護者のニーズを把握することや、教育・保育施設の職員が「子育て中の家庭を見て感じること」の把握を目的に「子ども・子育て支援に関するヒアリング調査」等を実施しました。

調査日時	調査場所	調査対象	調査方法
令和元年5月30日 10:30~12:00	甲子子育て支援センター	甲子子育て支援センターを利用している就園前の子どもがいる保護者 5名	当日に子育て支援センターを利用するために来所した保護者に声をかけてワークショップ形式でヒアリングを行った。
令和元年5月30日 13:00~14:30	青葉ビル活動室1	就学前の子どもがいる保護者 7名	公募により参加した保護者にワークショップ形式でヒアリングを行った。
令和元年6月25日 15:00~17:00	中妻公民館	教育・保育事業実施施設の代表者 14名	KJ法を用いたワークショップ形式で実施した。
令和元年10月25日 9:30~10:30	保健福祉センター	児童館を利用している就学前の子どもがいる保護者 4名	児童館指定管理者評価委員会において会議形式でヒアリングを行った。
令和2年3月2日	鶴住居幼稚園	鶴住居幼稚園就園児の保護者 7名	当日に園児の送迎のために登園した保護者に声をかけて個別にヒアリングを行った。



◀ 保護者へのヒアリングの様子

施設長へのヒアリングの様子 ▶



(1) 保護者ヒアリングの主な意見

①子育てで困っていること、こうなったらいいなということについて

【病院について】

- ・病院が少なく、県立病院を利用する際は初診料がかかってしまう

【一時預かりについて】

- ・自分が病院に行くときなど、緊急時の子どもの預かり先がない（転勤族で親族がいない）

【教育・保育について】

- ・土日祝の保育があると職場復帰できるが難しいだろうとわかっている
- ・保育型児童館の開所時間を長くして欲しい
- ・児童館でも給食を提供して欲しい

【交流について】

- ・話せる人がいなかったが、子育て支援センターを利用して同じような境遇の人に出会えたので子育て支援センターを知る機会を増やすとよい

【相談対応の質について】

- ・ゆっくり相談できる環境を整えて欲しい
- ・誰に相談しても的確で同様の回答をして欲しい

②子どもが安心して遊べる場所について

【公園が欲しい】

- ・公園がない、少ない（徒歩圏内に遊べる公園が欲しい）
- ・お弁当を持ってピクニックができて子どもが走り回れるような場所や水遊びができる場所が欲しい
- ・公園がどこにあるのか情報が欲しい

【公園の整備をして欲しい】

- ・公園の遊具の整備や除草、清掃など、安全に利用できるように整備をして欲しい
- ・小さい子どもでも遊べる遊具が欲しい
- ・駐車場の設置や拡張、トイレの多目的化、ベビーカーで公園に入りやすいようなハード整備をして欲しい
- ・児童館の遊具がないので設置して欲しい

【屋内での遊び場を整備して欲しい】

- ・就学・未就学問わず子どもを遊ばせられる無料施設を作って欲しい（土日祝対応）
- ・TETTO や図書館の中にも小さい子どもが利用できるスペースが欲しい
- ・子育て支援センターを小さい子どもの利用、兄弟の利用ができるように工夫をして欲しい
- ・子ども達が遊んでいるそばで、親が近くで見守ることが出来るカフェのような場所が欲しい
- ・子育て支援センターで昼食も食べられるようにして欲しい
- ・子育て支援センターを土日も開所して欲しい

③子どもや子育てに関する情報について

【情報に関して困っていること】

- ・ 広報を見ないとイベントを逃す（広報以外には情報が載っていない場合がある）
- ・ 釜石市のホームページがわかりにくい（子育て情報を探しにくい）
- ・ 釜石市のSNSの情報発信や更新のタイミングが遅い
- ・ 子育て支援センターの紙情報を子育て支援センター以外でも手に取れるようにしてほしい

【欲しい情報】

○教育・保育事業

- ・ 入園前に保育園や幼稚園に関する情報がほしい
- ・ 一時預かりの空き情報がデジタルで確認できると便利（毎回、各施設に電話で確認しているが利用者も施設も手間だと思う）

○イベント情報

- ・ 市主催以外のイベント情報があると幅広く選択できる
- ・ 子どもだけでなく母親支援の情報
- ・ 産前産後ケア、ヨガ、ベビーマッサージなどの教室情報
- ・ 離乳食、寝かしつけ、夜泣きへの対応など、子育てや母子保健に関する情報

○病院情報

- ・ 病院の情報全般（診療科目、場所、診療時間など）
- ・ 休日の病院情報（釜石市内に休日診療をする病院がない場合は、変わりにどこが近いかなどといった情報発信をしてほしい）

○遊び場情報

- ・ 子どもと一緒に遊べる場所や公園に関する情報

○ニーズ調査結果

- ・ ニーズ調査の結果が目に見える形で欲しい

【情報発信・手段・ツール】

○デジタル

- ・ SNS（LINE、Instagram、Twitter、Facebook など）やスマートフォンアプリでプッシュ配信も可能にしてほしい
- ・ 市ホームページを充実してほしい

○掲示

- ・ 子どもや保護者が集まるところ、目にとまるところに掲示（病院、商業施設など）

○その他、情報発信・共有に関するアイデア

- ・ 広報かまいしに子育て関連ページをつくる
- ・ 市ホームページに子育て世代向けのページをつくる
- ・ 妊婦向けの情報は母子手帳を配付時にまとめて配る
- ・ 産後の情報は保健師の赤ちゃん訪問でまとめて配る
- ・ 母子手帳配付時にサービス一覧、施設一覧などの情報が入っているとよい

④妊娠・出産・産後の支援ニーズについて

【妊娠の時期】

- ・妊婦検診ができる病院がほしい、増やしてほしい
- ・妊婦向けの教室が様々あるとよい
- ・必要なくなった育児グッズを直接交換できる機会があるとよい
- ・市外で里帰り出産をしたときでも、行政サービス（パパママ教室など）を受けられるとよい
- ・助産師などに落ち着いて相談できる窓口があるとよい

【出産の時期】

- ・出産できる病院が市内に1つしかないという不安を改善してほしい

【産後の時期】

- ・産後の健診の回数を増やしてほしい（子育て、子どもの成長が不安）
- ・安価で一人でゆっくりできる施設があると助かる（産院の延長のような施設）
- ・一時預かり保育などの教育・保育サービスの充実
- ・先輩ママとの交流会があるとよい
- ・産後の支援に関する情報がほしい

（2）施設長ヒアリングの主な意見

①保護者の資質・教育について

【子どもとの関係】

- ・子どもを褒めたり、叱ったりすることが少なく、子どもの言いなりになっていることも多くみられるなど、子どもと親との関わりが心配

【親自身の課題】

- ・保育士の話が伝わっていないことや、SNSを通して間違った情報が広がっていることがある
- ・親中心の生活になり、生活リズムが乱れている家庭がある
- ・子どもの登園準備ができなかったり、衛生管理できていない家庭がある

【夫婦・家庭内の課題】

- ・子どもの前で夫婦喧嘩をする家庭や親の離婚が増えており、子どもが不安定になっている
- ・父母が協力的である家庭と協力的でない家庭がある

②保護者の不安・ストレスについて

- ・一所懸命な親ほど、追い込まれているように感じる（子育てに不安）
- ・毎日の生活でいっぱいのように感じる（子どもと向き合う時間がない）
- ・複雑な家庭環境によるストレス（震災、ひとり親など）

③虐待について

【子どもの様子から感じられること】

- ・子どもや身の回りの物の衛生面（身体の衛生面、衣服の汚れ、持ち物の汚れ）

【保護者の行動により感じられること】

- ・園に預ける時間がとても長く、時間を過ぎてから迎えに来る
- ・親の発言で手を上げたと聞くことがあった
- ・再婚により、子どもが不安定になった

④仕事・経済的課題について

【社会・経済的状況】

- ・経済的に苦しい状況にある家庭もある
- ・釜石市内には待遇の良い職場や希望に合う仕事が少ない
- ・中学校、高校に進学する時の経済的負担が大きい（制服、携帯電話、クラブの用品）

【働き方】

- ・仕事が休みにくい
- ・仕事が忙しいので、子どもと向き合う時間が少ないように感じる

【ひとり親家庭】

- ・ひとり親家庭は、背負い過ぎていて負担も大きく、保護者の表情がみられない家庭もある

⑤子どもの食事について

- ・食事の偏り、好き嫌いが多い
- ・ごはんを食べるより、お菓子を多く食べる子どもがいる
- ・メニューがいつも同じ（子どもが好きなものだけ）で、成長にあった食事を取っていない
- ・朝食を食べてこない

⑥携帯電話の使用について

- ・子どもに携帯電話やタブレットをおもちゃとして預けている（携帯電話に子守りをさせている）
- ・携帯電話を子どもに預けながら登降園したり、保護者もイヤホンをつけたまま来る親がいる

⑦相談・サービスについて

- ・相談する人がいない
- ・子どもの体調が悪い時に、預ける所がない

6. 第1期計画の評価

子育て支援施策の取組状況や各種の統計データ、ニーズ調査結果などを基に第1期計画において設定した施策体系に沿って、本市の子育て家庭を取り巻く現状や課題について主なものを整理しました。

基本目標	施策
I 安心して妊娠・出産・子育てができる保健医療体制の充実	(1)母と子への切れ目のない健康支援
	(2)医療等の支援
II 安心して子育てできる豊かで安全な地域づくり	(1)地域における子育て支援
	(2)幼児期の教育・保育サービスの充実と質の向上
	(3)放課後児童の健全育成の推進
	(4)援助を必要とする家庭への支援
	(5)子どもの安全の確保
III 生きる力・創造性・社会性を育む教育環境づくり	(1)思春期の心と身体健康づくり
	(2)子どもの居場所づくり
	(3)子どもを取り巻く有害環境への対応
	(4)子どもの生きる力を育成する教育環境の整備
IV 生活も仕事も充実し両立する環境づくり	(1)ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の推進のための環境づくり

①安心して妊娠・出産・子育てができる保健医療体制の充実

現 状	<p>【取組の振り返り】</p> <p>○妊娠から出産・育児での不安を解消するため、各種相談や講座等を通じた情報提供を行っています。</p> <p>○各種健診により疾病の早期発見を進めるとともに、健診の受診勧奨を行ったことで受診率向上の成果が出てきています。</p> <p>○妊娠から出産・育児における経済的負担を軽減するため、医療費等の助成を行っています。</p> <p>○県内の医療機関や他市町村と妊産婦の健診情報や診療情報を共有するなど連携を強化し、周産期医療や小児医療の充実に努めています。</p> <p>○子育て応援ガイドブックの発行や市ホームページを通じて子育て支援に関する情報提供を行っています。</p>
	<p>【ニーズ調査等の結果】</p> <p>■子育ての相談相手や相談場所がない人は5.7%。</p> <p>■子育てでの悩みごとは、「子どもを叱りすぎている気がする」が28.1%で1番多く、「食事や栄養に関すること」が19.6%で3番目に多い。</p> <p>●一生懸命な親ほど追い込まれていると感じることもある。</p> <p>●市のホームページがわかりにくく、広報を見ないとイベント等を逃すことがあり、情報発信の仕方を考えてほしい。</p> <p>●情報発信については親世代が使っているSNSを活用してはどうか。</p> <p>■欲しい情報では「子どもの発育や病気」が2番目に多い。</p> <p>■充実を望む子育て支援策では「子どもの医療制度の充実」(54.3%)、「妊娠・出産・産後に関する支援」(38.9%)が2番目と3番目に多くなっている。</p> <p>●妊婦向けの教室や先輩ママとの交流できる場、子育て用品の交換会などの開催や情報がほしい。</p>

■ニーズ調査 ●ヒアリング調査



課 題	<p>⇒安全・安心な妊娠・出産・子育てのための切れ目のない支援が重要です。</p> <p>⇒要支援者が増加傾向にあるため体制の充実や児童虐待防止対策が重要です。</p> <p>⇒情報量の増加のため、ホームページの整備や利用者の利便性を踏まえたプッシュ式の情報発信方法の検討が必要です。</p>
--------	--



方向性	<ul style="list-style-type: none">□ 妊娠期から子育て期までの切れ目ない支援を行います。□ 要支援者支援のための体制強化を図ります。□ 情報発信方法を改善します。
-----	--

②安心して子育てできる豊かで安全な地域づくり

現 状	<p>【取組の振り返り】</p> <p>○地域子育て支援センターで予定していた連絡会が開催できていないことや、地域で子育て支援を行っている人へのサポートが十分に行われていない状況が見られます。</p> <p>○ニーズに沿った子育て支援を実施するため、平成 29 年度に子育て世代包括支援センターを設置し地域・子ども子育て支援事業の充実を図っています。また、障がいのある子どもへの対応や経済的負担の軽減、認定こども園への移行支援や保育の質の向上に向けた取組を行っています。</p> <p>○保育士の不足により、多様な保育の実施や受け入れが難しくなっています。</p> <p>○学童育成クラブは震災により仮施設での運営を行ってきましたが、令和元年度中に災害復旧及び改築整備が完了しました。</p> <p>○放課後子ども教室と学童育成クラブの相互の連携を深め、児童の放課後等における生活が充実するよう取り組んでいます。</p> <p>○関係機関との連携を強化し児童虐待の発生予防や早期発見、早期対応に努めてきました。また、ひとり親家庭への自立支援や障がいのある子どものいる家庭への支援など、援助を必要とする家庭への支援を行っています。</p> <p>○障がい児支援のために、平成 30 年度からサポートファイル「ほけっと」の配布を開始しました。</p> <p>○子どもに対しては、防災教育や定期的な避難訓練を行うこと、登下校時の安全確保のための見守り活動の強化などに取り組んでいます。</p> <p>【ニーズ調査等の結果】</p> <p>■日常や緊急時に子どもをみてもらえる親族・知人がいない人が 15.8%。</p> <p>●転勤族などは通院など緊急時に子どもを預かってもらえる人がいない。</p> <p>■母親の就労割合は 75.4%。未就労の 24.1%のうち就労意向を持っている母親は 67.2%。</p> <p>■経済状況では、ひとり親世帯のほうが比較的に「苦しい」と回答する傾向が見られる。</p> <p>■経済的理由により子どもが経験したことで、74.3%が「どれにもあてはまらない」と回答していますが、「子どもの服や靴を買えなかった」などといった回答も見られる。</p>
--------	--

現 状	<p>【ニーズ調査等の結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 充実を望む子育て支援策では「子どもが安心して遊べる場所」が69.5%で最も多い。 ● 遊び場については、公園の魅力や衛生面の向上、ピクニックができるような広場、図書館を子育て世代が使いやすいようにしてほしいといったことが求められている。 ■ 子育てでの悩みごとでは「子どもを叱りすぎている気がする」が28.1%で最も多くなっている。 ● 子育て支援センターに行くようになって知り合いができたので、もっと情報を発信したほうがよい。
--------	---

■ ニーズ調査 ● ヒアリング調査



課 題	<ul style="list-style-type: none"> ⇒ 子育て支援センターなど各施設により連携や交流することに温度差があるため、必要性の共通認識が重要となっています。 ⇒ 子育て支援センターの必要性は高いために、利用しやすい環境を整えることが重要です。 ⇒ 自主サークルに対する支援や釜石ゆいっこサポートセンター、各種補助事業などに関する情報が適切に届いておらず、周知や活用が進んでいない状況が見られます。 ⇒ 釜石ゆいっこサポートセンターの提供会員や子育て支援員の養成を行い地域で子育て支援をできる人を増やすことが重要です。 ⇒ 多様な子育て支援を充実させるため、保育士の確保が必要です。 ⇒ 既存資源を活用した子どもの遊び場を作り出すことが求められています。
--------	--



方 向 性	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 子育て支援センターの充実を図ります。 <input type="checkbox"/> 情報発信方法を改善します。 <input type="checkbox"/> 子育て支援員を養成します。 <input type="checkbox"/> 保育士確保のための施策に取り組みます。 <input type="checkbox"/> 子どもの遊び場の充実を図ります。
-------------	--

③生きる力・創造性・社会性を育む教育環境づくり

現 状	<p>【取組の振り返り】</p> <p>○妊娠期、乳児期、幼児期、学齢期など各ライフステージに応じた食育の取組や思春期講演会、デートDV、SNSの利用に関する教育など、心と身体の健康づくりに関する取組を行っています。</p> <p>○地域住民や公民館などと連携し、様々な体験を通して子どもの居場所づくりを進めています。</p> <p>○小学校への円滑な接続ができるように関係機関で連携調整をするとともに、各施設で質の高い教育が受けられるように職員に対し研修を行っています。</p> <p>○子育てや家庭教育を学ぶ機会を提供するとともに、育児不安を解消することができるように親子での交流機会を設けています。</p> <p>○行政、地域、学校、企業等がネットワークの構築や連携を図り、子どもの成長を見守る地域づくりを進めています。</p> <p>【ニーズ調査等の結果】</p> <p>■欲しい情報では「子どもが参加できるイベント」が59.3%と全体で3番目に多くなっている。</p> <p>●子どもと親との関わりが心配であり、親は子どもを褒めたり叱ったりすることも少ないように感じる。また、子どものことよりも自分中心の考え方をする親もおり生活リズムが崩れている子どももいる。</p> <p>●子どもに携帯電話をおもちゃとして預けていることが多い。</p> <p>●子どもの教育も大事だが、親の教育についても目を向けていく必要がある。</p> <p>●朝食の欠食や、好き嫌いが多く給食を食べるのが大変な子どももいる。</p>
--------	---

■ニーズ調査 ●ヒアリング調査





課題	<p>⇒性やデートDVに関する授業の満足度や理解度が高いため、引き続き実施するとともに多くの学校が関心を示し開催していくことが重要です。</p> <p>⇒こどもエコクラブやわんぱく広場などのイベントにおいて参加者が減少している一方で、子どもが参加できるイベントの情報も求められています。そのため、情報発信や開催方法の工夫を行い上手にマッチングしていくことが必要です。</p> <p>⇒復興支援のために実施していた講座等において、撤退する団体が出てきたことで継続が難しくなっています。内容や開催方法の改善、地域の資源の発掘が必要です。</p> <p>⇒小学校への円滑な接続ができるように関係機関で連携を行うことが必要です。</p> <p>⇒子どもの健やかな成長のためには、保護者に子育てや教育、子どもとの接し方を学べる機会を提供することが必要です。</p>
----	---



方向性	<ul style="list-style-type: none"> □ 保護者に向けた子育てや教育、子どもとの接し方を学ぶための事業に取り組みます。 □ 情報発信方法を改善します。 □ 子育て関連のイベントに関する周知を行います。 □ イベントや講座など子育て支援に関わる担い手を発掘します。
-----	---

④生活も仕事も充実し両立する環境づくり

現 状	<p>【取組の振り返り】</p> <p>○ワーク・ライフ・バランスの実現のため、職場での働き方や家庭での役割分担を選択できる環境の整備、各種講演会や講座等により意識の醸成を進めています。</p> <p>○本市では平成 30 年にイクボス宣言をし、市内企業へのワーク・ライフ・バランスを普及させるために庁内の働き方改革を進めています。</p> <p>○企業等民間団体に対しても、ワーク・ライフ・バランスの理解を促すとともに、労働者が育児休業制度などの各種制度を利用しやすいように、就業規則等への制度化や労働環境の整備に向けた取組の実施を働きかけています。</p> <p>○子育て応援企業認定制度により、子育てを地域全体で応援するといった社会全体の機運の醸成に努めています。</p> <p>【ニーズ調査等の結果】</p> <p>■子育てでの悩みごとでは「子どもとの時間を十分に取れない」が21.3%で2番目に多い。</p> <p>●仕事を休みにくく、子どもと向き合う時間が少なくなっている。</p> <p>●仕事が忙しいので父母に余裕がないように感じる。</p>
	<p>■ニーズ調査 ●ヒアリング調査</p> 
課 題	<p>⇒共働きの家庭も多く、子育てに向き合う余裕が家庭内で少なくなってきました。</p> <p>⇒生活状況に応じて働き方を選択でき、社会全体でもその選択を尊重できる機運が求められています。</p> <p>⇒家庭内での男女の役割分担意識の醸成が必要です。</p>
	
方 向 性	<p>□ ワーク・ライフ・バランスの普及に努めます。</p> <p>□ 父親の家事・育児への参加を促す取組を行います。</p>